



教育と福祉の町づくりを！
鈴木つとむの町政レポート

つとむ通信

発行
2016年5月第15号
松伏町議会議員
介護支援専門員
鈴木つとむ(勉)
住所 松伏町下赤岩239
電話等連絡先は下段

松伏小
966名

変わらぬマンモス校の現実 新設小建設 大人の責任

先の町議選で鈴木つとむ町議は、「教育・福祉・雇用対策重視の町政へ」と訴えてきましたが、その中でも最重要の緊急課題は、松伏小学校の大規模マンモス校の一日も早い解消で、そのための分離・新設小学校の建設です。

町議選中も松伏小児童の保護者から、「児童数が多すぎるので早く実現してほしい」「1時間近く徒歩で通学しているので、何とかしてほしい」と共感の声は、たくさん寄せられました。

文科省適正規模の60%超

文部科学省の定める学校の適正規模は、一つの学校で12～18クラス(1学年2～3クラス)



道の駅と観光事業を学びに訪れた秩父市羊山公園の芝桜(4月25日撮影)

となっ
ていま
す。

しかし、松伏小学校は4月時点で通常学級28クラス950人、特別支援学級16人

を合わせて966人の大規模マンモス校の状態が延々と続いてい

①児童の状況把握と指導面で数の限界値があり、学校規模を小さくすることで先生の目が行き届き、きめの細かい指導が可能になること。

②実質的な少人数学級になる可能性が高くなること。

③中学校2校に対し、小学校現状3校が4校になれば、同一小から同一中へと進学バランスが良くなること。

④遠距離通学問題が解消

松伏小学校のクラス別児童数 2016年4月現在

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	計
1年	29	29	29	28	29		144
2年	31	30	31	30	31	30	183
3年	36	36	36	37			145
4年	38	38	38	38			152
5年	39	39	40	39			157
6年	34	34	33	34	34		169

る現状にあります。分離・新設校の最大のメリットは、

学習能力向上に不可欠

されること。

⑤前記①～④の相乗効果もあり、いっそうの学習環境の改善と学習力向上につながること。

他の議員は沈黙!!!

鈴木つとむ町議は、唯一町議会で松伏小の分離・新設小実現を強く迫っているが、他の議員は、皆沈黙している状況です。

実現のカギは住民の世論にかかっています。ぜひ皆様のご意見をお寄せください。なお、今後も新設小をはじめ教育問題をシリーズで掲載する予定です。

車と自転車の接触事故多発

超危険！ 弥生橋たもと三差路



吉川方面から赤岩橋方面への右折車

下赤岩・岩平の弥生橋の県道において、吉川方面から赤岩橋方面に右折する車と歩行者や自転車との接触事故がニアミスも含め多発しています。

してもおかしくないといえる現状です。

子どもたちの通学路になっている場所でもあり、岩平地区住民から事故防止対策として、右折禁止にするか進入禁止・一方通行にするよう要望が寄せられています。

交通安全担当の総務課と折衝し、警察と早急に協議し、右折禁止など必要な対策を求めています。

特に、横断歩道もあるにもかかわらず、右折車が減速せず危険運転するケースも目立ち、このままではいつ死亡事故が発生

現在、鈴木つとむ町議が町の

鈴木つとむのトピックス

3月町議会での一般質問、つとむ通信4月号の続きです。
★散歩やウォーキングの習慣化と普及に向けて、町主催のウォーキング大会を求めて質問。「近隣自治体の大会を参考に関係各課と協議したい」と前向きな答弁があった。後はいつ実施するか。早期開催を期待したい。

★町職員の年次有給休暇と時間外勤務の実態を質問。答弁では、5年間の1人平均取得日数12.4日、傾向は微増。時間外勤務は1人の年間最高時間300時間程度、特定職場に偏り傾向あり。サービス残業は一切ないとのこと。これが事実であることを信じたい。

続々届く住民要望

- 公園にドッグラン設置
- 中川西側土手に遊歩道整備(舗装せずに草刈り徹底)

4/20 臨時町議会

議長・副議長とも70歳代 自民党系会派が独占

改選後の議長、副議長選出のための選挙後初の臨時町議会が4月20日に行われました。

臨時議会前の事前会議において、鈴木つとむ町議が「選挙方法は正式立候補制にすべき」と主張しましたが、他に同調議員が現れず、あっさり否決。

議長、副議長選挙では水面下

で一発逆転を模索したものの、調整不調で自民党系会派の独占を許す結果になりました。

議長には佐藤永子氏(11票)、副議長は高橋昭男氏(12票)を選出。二人とも72歳。

町議会で健全野党を貫いているのは鈴木つとむ町議のみで、改選前と変わらぬ現状でした。

反原発 小出講演会に130人 子どもたちを被爆から守れ!!!

原発の問題性と危険性を一貫して研究してきた元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章さんの講演会が4月24日、越谷中央市民会館で開催されました。会場が満員になる盛況で、参加者は皆熱心に聞き入りました。

小出さんは「自分が被爆しても、子どもたちを被爆から守るのが大人の責任」と説き、参加



原発の危険性を説く小出裕章さんはあらためて原発廃止の決意を強めました。